

2020年4月13日

各 位

会 社 名 ソーシャルワイヤー株式会社
 代表者名 代表取締役社長 矢田 峰之
 (コード番号：3929 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役社長室長 藤原 直美
 (TEL. 03-5363-4872)

業績予想の修正及び「中期経営計画 FY21」取り下げに関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2019年4月26日に公表した2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の業績予想修正及び「中期経営計画 FY21」（2020年3月期～2022年3月期）を取り下げる事となりましたのでお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,800	270	240	160	26.67
今回修正予想(B)	3,924	201	159	72	12.00
増減額(B-A)	124	△ 69	△ 81	△ 88	—
増減率(%)	3.2%	△ 25.5%	△ 33.7%	△ 55.0%	—
(ご参考)前期実績 2019年3月期	3,264	405	396	240	41.05

2. 業績予想修正の理由

デジタルPR事業におけるインフルエンサーPRの案件数、リリース配信（月額制）の利用者数、取引先チェックサービスの利用者数がいずれも好調に推移したことに加えて、シェアオフィス事業の新規大型拠点の稼働席数が期末にかけ当初見通しを超えてきたことで、売上高は「前年同期比 20%増」の大幅な成長見通しとなりました。

一方で、シェアオフィス事業の新規大型拠点において、内装投資額を抑制したことにより、内装の一部に「20万円以下の少額資産（経費計上ならびに一括償却）」が想定より多く含まれたことで、一時的な原価上昇（52百万円）が発生いたしました。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、デジタルPR事業の高利益率サービス（リリース配信（従量制）やインフルエンサーPR）の一部イベント案件の消失や月ズレによる売上減少（35百万円）が発生いたしました。これら要因により、営業利益については前回発表予想を下回る見込みとなりました。

また、期中において、連結子会社であるトランススマート株式会社の、のれんの減損損失を認識し、特別損失（19 百万円）として計上しております。これらにより、親会社株主に帰属する当期純利益は当初予想を下回る見通しとなりました。

3. 配当について

2020 年 3 月期期末配当金につきましては、従来予想の 1 株当たり 6 円 00 銭（年間配当額は前期比 1 円 00 銭増の 12 円 00 銭）を維持する方針です。

4. 中期経営計画について

当社では、「中期経営計画 FY21」（2019 年 4 月 26 日開示）において、既存事業を核とした高成長市場へのグロース投資による成長率の向上と事業規模最大化を中期方針とすることを公表しております。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う昨今の急速な環境変化は、当社の主要サービスの一部に以下のような影響がでることを想定しております。

デジタル PR 事業	リリース配信（従量制）サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント案件消失による売上減少 ・企業 PR の自粛手控えによる影響
	インフルエンサー PR サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント案件消失による売上減少 ・企業 PR の自粛手控えによる進行遅延
	※リリース配信（月額制）サービス、クリッピングサービスにおいては、現時点において、影響は限定的であると想定しております。	
シェアオフィス事業	貸しセミナールームサービス	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー案件消失による売上減少
	※シェアオフィスサービス、クラウド翻訳サービスにおいては、現時点において、影響は限定的であると想定しております。	

事業規模の成長率を最大化するという中期方針は持続できるものと想定しておりますが、公表計画数値においては、事業環境や市場環境を見据え、再検証する必要があると判断し、「中期経営計画 FY21」を一度取り下げるものといたします。今後につきましては、再検証、精査の上で、2020 年 5 月上旬を目途として、改めて公表する予定といたします。

※ 上記の予想は、当社が本業績予想修正の発表日において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績等は様々な要因により予想値と異なる結果となる場合があります。

以 上